協働・共感で響きあう　まちづくりをLEADする　京丹後市商工会

京丹後市商工会だより

Kyotango City Society of Commerce & Industry

2019年
1月13日発行
1月号
Vol.134

京丹後市商工会　京都府京丹後市峰山町杉谷836-1
●TEL.0772-62-0342 ●FAX.0772-62-3553
●URL:http://kyotango.kyoto-fsci.or.jp
●網野支所/TEL：72-1863 ●大宮支所/TEL：68-0038
●丹後支所/TEL：75-2222 ●久美浜支所/TEL：82-0155
●弥栄支所/TEL：65-3137（火・金のみ）

年頭挨拶

新年のご挨拶

京丹後市商工会
会長　行待佳平

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族お揃いでお健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年中は、商工会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も相変わりませず、宜しくご支援くださいますようお願い申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、2月の記録的な大雪にはじまり、地震・豪雨・猛暑・台風など、未曽有の天変地異が日本の各地で起き、流通産業をはじめ日本産業界に大きなダメージを与え、本市でも観光業を中心に大きな影響を受けました。

5月に会長に就任してから、海外販路開拓事業として「京都・京丹後〝旬の食材〟輸出商談会inタイ・バンコク」を海外現地で開き、取引実現による京丹後食材のブランド力向上に一定の成果を上げました。また、本年10月に実施される消費税率の改定に伴う「消費税軽減税率制度」の説明会を開催して、軽減税率導入による影響等を分かり易く説明し、目前に迫る経営環境の変化に対応することに、力を入れた取り組みを行ないました。

今後も支援組織として、市内商工業者をはじめ、その従事者が思う存分力を発揮でき、かつ創意工夫による新しい市場を切り拓くことに挑戦できる支援環境づくりをし、他地域に劣ることのない支援を尽くし、会員事業者とともにその成果を共有できる体制づくりを行なっていきます。

本年も、役職員一同地域の総合経済団体としてのその役割を深く認識し、将来にますます希望の持てる活気に満ちた誇りある地域と地域経済とまちづくりの実現に尽力してまいります。

結びにあたり、会員の皆様にとってこの1年が幸多き年でありますよう祈念申し上げ、年頭にあたり所感の一端を申し述べてご挨拶といたします。

市制15年の節目から新たなスタート

京丹後市長　三崎政直

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、一昨年に続き全国で大災害が頻発し、本市でも大雪、豪雨、猛暑、台風などに見舞われ、対応に追われた年でありました。被害も広範囲にわたり、いまだ復旧に至っていない箇所も多く、市民の皆さまにはご不便をお掛けしている所もあるかとは存じますが、一日も早い復旧を最優先に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

近年の災害要因は地球規模の気候変動や温暖化などがあげられていますが、今回いくつかの被災現場に足を運んだ中で感じたことは、人と自然の関わりが希薄化してきたことも一因となっているのではないかということです。

一方、被災された地区では住民の皆さんがお互いに協力し、また、親戚やボランティアにも入っていただき、懸命に泥かきや家財の片付けなどに汗を流されていました。その中で「ありがとう」と感謝の言葉が交わされている姿を目の当たりにしたとき、災害に立ち向かい、支え合う社会のシステムとしてコミュニティーが生まれ、地域の再生を繰り返し担ってきたこと、また、今までの暮らしが明日からも続くことの尊さと責任の重さを実感し、現在取り組んでいる持続可能な地域づくりをさらに進めていかなければならないという思いを一層強くいたしました。

また、被災されました商工会員をはじめとする事業者の中には、廃業された事業者もあるとはお聞きしておりますが、多くの事業者におかれましては、早期に復旧され、大きな混乱もなく新年をお迎えのことと存じます。

新たなスタートへ

本年3月31日をもって京丹後市制満15年という一つの節目を迎えます。市長就任以来、人口減少対策を最重要課題と位置付け、京丹後市の新たなまちづくりに向けて取り組んでまいりました。創業支援については、商工会も相談窓口として連携していただくなか、平成29年度からU・Iターン希望者を創業支援等補助金の対象者に加えましたところ、平成29年度で14名中、5名が、平成30年度は7名中、5名がU・Iターン者の創業となっています。

しかしながら、依然として人口減少が続いております。そのスピードを少しでも緩やかにすべく、この市制15年の節目を新たなスタートとして、本年も積極的に粉骨砕身取り組んでまいります。

持続可能な地域の実現へ

今年の干支は己亥（つちのとい）で、新しい変化がみられる年といわれています。

本市では、山陰近畿自動車道の全線完成に向けて取り組んでいますが、京丹後大宮ＩＣの開通により森本工業団地に2つの企業の進出が決まり、今後の経済・雇用効果が期待されます。さらにその効果を市内全体に行きわたらせるために、現在、（仮称）大宮峰山ＩＣまでの5キロ区間についても事業が順調に進んでおり、昨年からは（仮称）網野ＩＣまでの区間についても地籍調査を始め、早期事業化を目指しています。加えて本年は、網野から兵庫県境間の希望ルート帯調査に着手いたします。

また、恵まれた自然や資源を活用したスポーツや観光にも取り組んでいるところですが、本市は、「東京２０２０オリンピック・パラリンピック」カヌー競技のホストタウンに登録されるとともに、「ワールドマスターズゲームズ２０２１関西」のカヌー競技開催地にも決定しております。昨年は国際オリンピック委員会の委員でもある国際カヌー連盟のホセ・ペルリナ会長をはじめ、ヨーロッパやアジアの多くの国から競技関係者が久美浜湾を現地視察に訪れており、合宿誘致や大会開催に向けて準備を進めてまいります。

交流人口の増加が、本市の経済の好循環を生み出し、また、海外へ「丹後ちりめん」をはじめとする「京丹後ブランド」を発信する機会として位置付け、精力的にアピールしてまいりたいと考えています。

15年間の歩みを振り返りながら、本年も引き続き持続可能な地域・社会・経済の実現を目指し、全力で邁（まい）進してまいりますので、行待会長様をはじめ、商工会役員と会員の皆さま、事務局職員の皆さまにおかれましては、引き続きご協力をお願い申し上げます。

市全体で自助・共助・公助の心を共有し、故郷を守り継続するために、地元を離れた方に伝えます。「帰りなんいざ、田園まさに蕪（あれ）なんとす、なんぞ帰らざる」（※）

平成最後となります本年が、皆さまにとりまして平穏で実り多い年になりますことを心より祈念し、新年のごあいさつといたします。

※意訳：「さあ故郷へ帰ろう。故郷の田園が荒れようとしているのにどうして帰らずにいられよう」。これは中国の文学者で「田園詩人」と称される陶淵明（とうえんめい）の漢詩「帰去来（ききょらい）の辞」（405年作）の一節。都会での職を辞して帰郷する決意や故郷で生活することの喜びを述べている。

「新たな京都へ」

京都府知事　西脇隆俊

府民の皆さま、あけましておめでとうございます。

昨年4月、府民の皆さまからのご信託を賜り、京都府開庁から150年目の年に、第51代京都府知事に就任させていただきました、西脇隆俊です。

知事就任にあたっては、「現場主義を徹底すること」「前例にとらわれないこと」「連携すること」を職員に指示し、6月には「将来に希望の持てる新しい京都づくり」に向け、「安心で暮らしやすい社会の構築」「京都産業の活力向上」「スポーツ・文化力による未来の京都づくり」を重視した肉付け予算を編成して、府政をスタートさせました。

しかし、その直後には、6月の大阪府北部地震や7月の豪雨、9月に入っての台風21号や24号、それに伴う強風被害や大雨など、次々と自然災害が襲いかかりました。改めて、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被害に遭われた皆さまにお見舞いを申し上げます。

京都府では、災害後、直ちに補正予算を計上し、復興、復旧に向けた対策を講じるとともに、府民の皆さまの安心・安全を守るため、災害対応の検証を行い、先進的な防災・減災対策や治水対策、危機管理体制の強化充実など、地域防災計画の見直しを進めているところです。

一方で、昨年は、2020年のNHK大河ドラマが、京都ゆかりの明智光秀を主人公とした「麒麟がくる」に決定したことや、京都大学の本庶佑特別教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されるなど、歴史や文化、学術のまち京都にとって、大変喜ばしい出来事も多くありました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や、2021年度中とされる文化庁の全面的な京都移転、そして2025年国際博覧会（万博）の大阪・関西での開催を控え、日本そして京都への世界からの注目度は、今後ますます高まります。このチャンスを逃すことなく、本年9月に開催されるＩＣＯＭ（国際博物館会議）京都大会等においても、京都府内各地の多様な文化資源をアピールし、「日本の文化首都・京都」を世界中に発信してまいります。

今、国内外から多くの観光客が京都を訪れています。2017年の観光入込客数は約8700万人、外国人宿泊客数は約360万人、観光消費額も過去最高の約1兆1900億円を記録しました。しかし、それらの多くは京都市内に集中しています。

京都縦貫自動車道の整備や新名神高速道路の新区間開通によって、南北のアクセスは格段に向上しました。鉄道やバスの利用も含め、海・森・お茶の京都、竹の里・乙訓といった「もうひとつの京都」への周遊を促すことが重要です。観光客の満足度の向上や観光地の広域連携等を盛り込んだ「京都府観光総合戦略」を策定し、府内各地に効果が波及するよう取り組みを進めてまいります。

今年の3月には、「京都経済センター」がグランドオープンします。京都府・京都市・京都経済界が「京都経済百年の計」として力を結集し、京都経済の発展を支える拠点になるものです。このセンターを核に、オール京都体制で産学官の連携や人材育成、生産性の向上に一層取り組んでまいります。

こうした明るい未来に向かって、様々な取組を推進する一方で、私たちの足元には、乗り越えなければならない課題が山積みとなっています。日本は、少子化・高齢化がますます進展し、本格的な人口減少社会に突入することは避けられない状況です。東京への一極集中も依然として続いており、地域コミュニティが弱体化する中、労働力不足も深刻です。

私は、そうした課題に臆することなく立ち向かい、全ての世代の皆さまが暮らしやすい社会の実現を目指した「子育て環境日本一」の取組等を通して一つ一つの課題解決に努めてまいります。

さらに今年は、天皇陛下が4月30日に御退位され、皇太子殿下が5月1日に御即位されます。現在、策定を進めている京都府の将来構想及び基本計画となる「新総合計画」では、新しい時代に対応した「夢のある将来ビジョン」を掲げ、次代を担う子どもたちが希望を持てる未来へのロードマップを描いてまいります。府民の皆さま、「新たな京都」に向けて共に歩みを進めてまいりましょう。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。